

IAUD Newsletter vol.11 第 10 号(2019 年 1 月号)

1. 古瀬理事長より新年のご挨拶..... 1
2. IAUD 設立から 15 年を振り返って..... 2
3. 「第 7 回国際 UD 会議 2019 in バンコク」開催のご案内..... 14
4. IAUD 2019 年 1 月の予定..... 15

国際会議初の海外開催で UD 成果をより世界に発信 古瀬理事長より新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。昨年は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も IAUD へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は 3 月に「第 7 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」を開催します。現在、実行委員会を中心に着々と準備が進められています。

今年最初の Newsletter では、初の海外開催となる国際会議への期待について、また今後の IAUD の役割などについて、古瀬敏理事長によるご挨拶を掲載します。



古瀬敏理事長

明けましておめでとうございます。

冒頭に書いてあるように、3 月 4 日から 6 日まで「第 7 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」を開催します。これまでは 10 月から 12 月にかけての時期で開催してきましたが、準備の都合上、年を越えて開催することになりました。ただ、ぎりぎり日本にとっては年度内に納まりました。

今回は初めての海外開催ということで、準備になかなか苦労していますが、資金も含めて、開催のめどがどうにか立ちました。

これまでと同じように同時通訳をしようとする、共通用語としての英語と日本語にタイ語が加わり、それらを字幕で表示、さらに手話通訳はどうなるのか、ということまで、すべて初めての経験に

なります。費用と質とをどのように担保できるのか、いわば手探りで調整しているところです。

会場は KMITL (キングモンクット王工科大学ラトクラバン校)、町の中心からはやや遠くて空港の近くですので、近隣駅からのシャトル輸送を計画しています。

開催国であるタイは ASEAN の中心でもあります。また国連 ESCAP (国連アジア太平洋経済社会委員会) 本部がバンコクにあり、「アジア太平洋障害者の 10 年」を実施するなど、数十年にわたるバリアフリー/UD の蓄積があります。今回の国際会議では、それらを踏まえての近隣アジア各国の参加によって、情報交換が活発に行われることを期待しています。

これまで、IAUD は国際と名称にうたっていたものの、どちらかといえば内向きの傾向がありました。今回を機会にそれを何とか打破できればと思っています。

IAUD 会員各位におかれましては、どうぞ積極的な参加をお願いいたします。

2019 年 1 月
一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会理事長
古瀬 敏



これまでの成果と実績を振り返って IAUD 設立 15 年の歩み

2018 年 11 月 28 日に IAUD は設立から 15 年を迎えました。これも、当協議会の設立と発展にご尽力賜りました関係者の皆様、並びに日々の活動にご参加いただきました会員の皆様のご支援とご協力の賜物です。

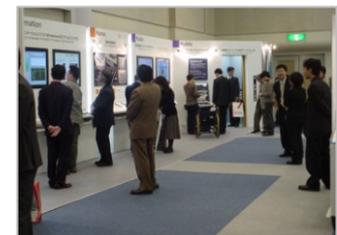
当協議会はこの 15 年間で取り組んできた事業を今後も責任をもって続けるとともに、これまでの成果と実績を世界に向けてしっかりと発信し、日本発の UD をより一層広めていきたいと思えます。

今号の Newsletter では、設立から 15 年間の IAUD の主な行事や活動を振り返ります。

2002 年

⇒ 11/30～12/4 「国際 UD 会議 2002」(横浜・パシフィコ横浜)

 20 か国から約 4,600 名が参加。テーマは「人間のために、一人一人のために暮らしの明日を考える……まち、もの、そして情報」。国内外の UD 専門家による講演やこれまでの UD の成果を紹介する展示会が行われた。UD 宣言「一人一人の人間性を尊重した社会環境づくりを UD と呼び、使い手と作り手の関係を再構築することで社会のすべての面に適用されるべき人間中心の仕組み作りを急ぐことが重要」を採択。この宣言は今も IAUD の活動の原点になっている。



2003 年

⇒ 11/28 国際ユニヴァーサルデザイン協議会設立

「国際 UD 会議 2002」の理念と成果を継承して設立。総裁に寛仁親王殿下、会長には富士通名誉会長の山本卓真氏をお迎えし、国内最大の UD 推進団体としてスタート。公式 Web サイトオープン。「UD の更なる普及と実現を通して、社会の健全な発展に貢献し、人類全体の福祉向上に寄与すること」を基本理念とする。



設立に向けての記者会見で、「何故ユニバーサルではなくユニヴァーサルの表記なのか」との記者からの質問に寛仁親王殿下自らマイクを取られ、「私が強く要望したもの。UD で言語の壁を越えたものを作ろうというのに、“ユニバーサル”と発音していたのでは外国人に通じない。少しでもネイティブの読みに近い表記として“ユニヴァーサル”を採用した」とご説明された。

⇒ 12/26 「IAUD 発足記念公開セミナー」(東京・銀座)

初の公開セミナー。講演「IAUD への期待と世界の潮流」(英国王立芸術大学院ヘレン・ハムリン研究センター教授 ロジャー・コールマン氏)とパネルディスカッション「事業に活かす UD の課題」を実施。生活者との対話を重視した協議会運営の重要性を確認。

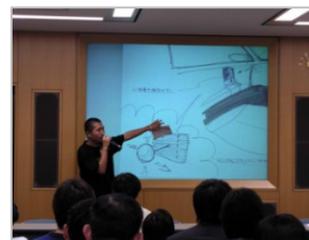


2004年

⇒ 10/25「UDワークショップ」(横浜・あざみ野)

初のユーザー参加型ワークショップ。体の不自由なユーザーや会員企業のデザイナー、プランナーなど29名が参加。

デザイナーがユーザー現場の問題点を体感し、新しいデザインの可能性を探ることに一定の成果が得られた。また、デザイン開発現場でユーザー参加のUD開発の必要性を再認識。



⇒ 12/8～12「Designing For The 21st Century III」IAUD セッション開催

(Adaptive Environments 主催、ブラジル・リオデジャネイロ)

日本企業のUDの取り組みと商品を紹介。世界のUDが学術研究の場や社会福祉のレベルにとどまる中、日本は各企業が具体的な取り組みを持って製品にUDの発想を取り入れていること、本来はライバルである企業同士が一つの大きな目標に向かって知恵を出し合いスタンダードモデルを作ろうという姿勢が注目された。



⇒ 12/10 Adaptive Environments より Ron Mace Designing for 21st Century Award (ロン・メイス賞)受賞

2005年

⇒ 3/1 IAUD 会報創刊(以後、2007年12月まで発行)

⇒ 3/3「2004年度活動・成果報告会」開催(東京・三田)

発足から1年が経過し、これまでの活動内容を会員と一般の方々に情報発信。会員限定の「活動報告会」、一般公開の「成果報告会」「懇親会」「IAUD・各委員会の展示」の4構成で実施。以後、成果報告会は年度末に継続開催している。



⇒ 3/28「IAUD 特別公開セミナー」(東京・汐留)

講演「UD・世界の潮流と課題」(ムーアデザイン・アソシエーツ社長 パトリシア・ムーア氏)。

⇒ 4/5～8「INCLUDE 2005 国際会議」IAUD セッション開催

(英国王立芸術大学院主催、英国・ロンドン)

日本企業のUDの実践事例について発表。また、欧州で使われている「Inclusive Design」についての意味合いをつかみ欧州におけるUDの動向を探った。また、ブラジル・リオでの会議に引続き、国際会議の運営等を学ぶ。



⇒ 9/22～28「ERA05 世界デザイン会議」参加

(ノルウェーデザイン協会主催、ノルウェー・オスロ)

オスロ・プレコンファレンスで講演し、IAUDの主な活動を紹介。また、IAUDコーナーを設け日本のUD商品を展示。



⇒ 10/1 IAUD サロン開設

東京・八丁堀に会員の打ち合わせや情報交換など IAUD 活動の拠点として設置。

⇒ 10/3~4「UD ワークショップ 2005」(新横浜)

ユーザー参加型のワークショップ会期を 2 日間に延長して開催。「デザイナーはユーザーとユーザーのフィールドの間にある問題を体験した上で新しいデザインの可能性を探ること」の重要性を認識。



⇒ 10/21「IAUD 公開フォーラム 2005」(京都市)

「伝統文化と暮らしの UD」をテーマに、国際会議への参加を促すことを目的として開催。講演「世界の UD 動向と 06 年国際会議への期待」(キャンベラ大学名誉教授 ビル・グリーン氏)やパネルディスカッションを行う。



2006 年

⇒ 2/6「第 2 回国際 UD 会議プレイヴェント」(神奈川・川崎)

講演「アクセシブル・デザイン規格の整備状況と国際展開」(経済産業省産業技術環境局 横田真氏)、「UD は今後どこへ向かって行くべきか?」(Adaptive Environments 所長 ヴァレリー・フレッチャー氏)実施。



⇒ 2/14~15「UD カンファレンス 2006」基調講演

(International Forum Design 主催、ドイツ・ハノーバー)

ドイツで最初に開かれた UD 会議で IAUD の成果や日本の先進的 UD を紹介し、ヨーロッパで日本の UD 情報を発信。また、UD 展視察などでドイツの UD の現状を調査。



⇒ 3/30 Design for All 講演

(Design for All, Foundation 主催スペイン・バルセロナ)

日本が超高齢社会に突入している現状と IAUD の設立経緯、会員企業の UD 商品開発への取り組みを紹介。日本製品の質の高さや UD への取り組みに称賛を得る。



⇒ 10/22~26「第 2 回国際 UD 会議 2006 in 京都」(京都・国立京都国際会館)



29 か国から約 14,700 名が参加。テーマは「さりげなく、大胆に ~使い手と作り手の対話、実践そして実現~」。有識者による基調講演やセッション、最新の日本の UD 製品を紹介した展示会を実施。UD 宣言「世界に今なお存在するさまざまな差別、貧困、戦争、環境汚染、利己主義、無関心。UD はこれらに対し敢然と立ち向かい、みんなが平和に、快適に暮らせる社会を目指すために、話し合いを続ける」を採択。



⇒ 10/23～25 特別ワークショップ「第1回 48時間デザインマラソン in 京都」

IAUD とヘレン・ハムリン研究所の共同開催。英国人リーダー5名を招聘しグローバル化、学生ボランティアによるサポートで産学共同体制を構築し、ユーザー参加型デザインプロセスを確立。今回でフィールドサーベイから企画、開発、提案に至る「48時間デザインマラソン」の骨格を創成。以後、毎年全国各地で開催しておりこれまで多くの経験者が育っている。



⇒ 12/14～16「第1回サステナブルデザイン国際会議 Destination2006-2026」参加
(サステナブルデザイン国際会議実行委員会主催、東京・有明)

2007年

⇒ 10/23～25 特別ワークショップ「第2回 48時間デザインマラソン in 千葉」

⇒ 12/21～23「第2回サステナブルデザイン国際会議 Destination2007-2025」共催

(サステナブルデザイン国際会議実行委員会主催、岐阜・白川村)
サステナブルな社会におけるデザインの役割やふさわしい生活価値観の創出と提案を学ぶ。また、「エコイノベーションで実現するサステナブルなライフスタイル 2025」編纂に協力。



2008年

⇒ 4/1 情報交流センター設置、IAUD Newsletter 第1号創刊

国内・海外への UD 情報受発信機関として IAUD サロン開設内に設置。以後、IAUD Newsletter を毎月発行。

⇒ 9/22～23「UD フォーラム in 札幌」

「北の暮らしと UD」をテーマに、講演「スウェーデンの UD 紹介」(エルゴノミデザインジャパン代表 ダーグ・クリングステット氏)やパネルディスカッション、ワークショップ「余暇の UD サービスシナリオの提案」を実施。地域の人々と UD の意義や重要性を共有した。



2009年

⇒ 2/25～28 特別ワークショップ「第3回 48時間デザインマラソン in 東海」

⇒ 2/27～28「IAUD UD 大会 in 東海」(名古屋市)

東海地区の人々の暮らしや産業、学術研究などに焦点を当て、UD を通しての研究発表や事例紹介、展示等を実施。

また、講演会やパネルディスカッションなどを通じて、将来の暮らしや社会のあり方を共に考えた。



⇒ 12/4～5 国際 UD 会議プレイヴェント「しずおかユニバーサルデザインの絆 in 浜松」

UD に対する県民・市民の関心と理解を深め、情報発信を目的に開催。記念講演「誰もが暮らしやすい高齢社会への提言」(評論家 樋口恵子氏)やテーマ「次の世代に今できること」のパネルトークを実施。



⇒ 12/4～5 特別ワークショップ「第 4 回 48 時間デザインマラソン in 浜松」

2010 年

⇒ 2/10 「IAUD UD マトリックス ユーザー情報集・事例集」発刊

デザイン開発者が UD を考えるヒントになるよう、標準化研究ワーキンググループが幅広いユーザーに関する情報と配慮ポイントを集めたユーザー情報集と製品やサービスを収集した事例集を 1 冊に収集。

⇒ 5/1 「テレビコマーシャルにも字幕を」発刊

テレビコマーシャルへの字幕付与をめざした活動をしている余暇の UD プロジェクトが生活者向けの啓発冊子として作成。

⇒ 10/29 「UD 先進事例～多様性への挑戦、IAUD 会員の取り組み」電子書籍で発刊

32 社・団体の IAUD 会員による先進的な UD 取り組み事例を紹介。



⇒ 10/30～11/3 「第 3 回国際 UD 会議 2010 in はままつ」(浜松・アクトシティ浜松)

38 か国から約 14,110 名が参加。テーマは「人と地球の未来のために～持続可能な共生社会の実現に向けて」。小中学生対象のこども UD コンテストや地雷除去機や発展途上国の人々を救うデザインを展示した特別企画展「世界を救うデザイン」を実施。UD 宣言「人、文化、習慣の多様。一方で私たちは普遍的でもある。人は等しく笑い、泣き、悲しむ。UD のゴールは差別をなくし、人びとの違いを尊重し、世界をつなぎあうこと」を採択。



⇒ 10/31 ドイツユニバーサルデザイン協会より universal design honor award 2010 (UD 栄誉賞) 受賞

⇒ 10/31～11/3 特別ワークショップ「第5回 48時間デザインマラソン in 浜松」

⇒ 11/1「IAUD アワード 2010」



UD 社会の実現に向けて特に顕著な活動や貢献をした団体・個人を表彰する IAUD アワード事業を開始。

国内外 23 件のエントリーから「大賞」1 件「優秀賞」3 件を選出し、国際会議中に表彰式と受賞者によるプレゼンテーションを開催。以後、2012 年に第 2 回、2013 年以降は毎年実施し UD の普及啓発を推進している。



2011 年

⇒ 2/17～18「第2回 UD 国際フォーラム」講演

(マラガ市議会主催、スペイン・マラガ)

日本が超高齢社会となっている現状や日本の最新の UD 商品、サービス事例を紹介。



⇒ 7/8「第5回キッズデザイン賞」キッズ・コンシューマーサポート部門受賞

余暇の UD プロジェクト作成の冊子「テレビコマーシャルにも字幕を」による啓発活動が受賞。子どもの会話の現状をリサーチし CM と字幕という社会課題に光を当てた独自性と、親子で UD の意味を考える契機になると評価された。

⇒ 9/22～23「国際 UD 学術祭」参加(ソウル DPI 主催、韓国・ソウル、スオン)

講演「IAUD の役割と課題」で、超高齢社会となっている日本の現状や日本の最新の UD 商品、サービス事例を紹介

⇒ 11/7「2011 UD 国際セミナー」参加(デジョン市主催、韓国・デジョン)

講演「UD におけるまちづくりの体系的な戦略と自治体の役割」で静岡県の事例を紹介。

⇒ 9/29～10/2 特別ワークショップ「第6回 48時間デザインマラソン in 金沢」

⇒ 12/9「平成 23 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」受賞

「内閣府特命担当大臣表彰 奨励賞」を受賞。研究や活動の成果を披露する場として「国際 UD 会議」を開催するなど、幅広い層への普及活動に貢献したと評価された。



2012 年

⇒ 2/10「交流会の UD—みんなが楽しめるノウハウ集」

「交流会の UD—UD コミュニケーションブック(パーティ編)」発行

余暇の UD プロジェクトは交流会で誰もがスムーズで楽しくコミュニケーションするためのノウハウを 2 つの冊子にまとめた。



⇒ 3/22 「2011 年度 IAUD 成果報告会／第 4 回国際 UD 会議プレイヴェント」(東京・江東区)

2011 年度の研究部会と委員会活動の活動成果を報告。また、基調講演(野村総合研究所顧問 増田寛也氏)、講演「安全・安心～UD の基本を考える～」(防衛省統合幕僚監部 竹本竜司氏、建築家 伊東豊雄氏)では、東日本大震災復興現場での活動紹介があった。



⇒ 6/25～29「設計知識週 2012(Knowledge of Design Week 2012)」参加

(香港デザインセンター主催、中国・香港)参加

基調講演「0 歳から 80 歳まで:なぜ日本製品はすべての人に恩恵を与えるのか」及びワークショップ「ビジネスとデザイン:人間中心のアプローチ」「不可能な任務:あなたは日常のデザインを使えていますか」を実施。



⇒ 8/28 冊子「衣着る I」発行

衣の UD プロジェクトが人間生活における衣の重要性を分かりやすく解説。



⇒ 10/10～10/13 特別ワークショップ「第 7 回 48 時間デザインマラソン in 福岡」

⇒ 10/12～14 「第 4 回国際 UD 会議 2012 in 福岡」

(福岡市:福岡国際会議場、福岡国際センター)



22カ国から延べ約 11,400 名が参加。テーマは「安全・安心～UD の基本を考える」。防衛省協力による特別企画展「命を救うデザイン」も開催。UD 宣言「技術をどうデザインして使いこなすかは、私たち「人」にかかっている。寛仁親王殿下のご遺訓にあるように、それは私たちが一生をかけるに値する命題である。安全・安心な社会のために、私たちの小さな力と UD の考え方が大きく貢献できる」を採択。



⇒ 10/14 「IAUD アワード 2012」



IAUD
AWARD
2012

国内外 34 件のエントリーから「特別賞/寛仁親王賞」1 件「大賞/経済産業大臣賞」1 件「金賞」「銀賞」各 11 点を選定。

⇒ 10/14 「第 1 回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験」(福岡市)



UD の更なる普及と実現をめざす一環として UD 検定事業がスタート。国際会議中に UD 検定・初級の第 1 回目を実施。

初級検定試験は UD の基礎的知識を学習する講習会と理解度をテストする検定試験の二部構成。以後、毎年全国各地で実施。



2013年

⇒ 1/9「第1回定例セミナー」(東京・大森)

主に各省庁や自治体関係者を講師にUDに関する政策や課題などをテーマにする定例セミナーを開始。講演「人にやさしいまちづくり」(内閣府大臣官房審議官 渋谷和久氏)、「クールジャパン産業を海外へ」(経済産業省商務情報政策局 外山雅暁氏)。会場は満席となり、国や自治体の動きや協働についての関心の高さが伺えた。



⇒ 3/26「2012年度IAUD成果報告会／第2回定例セミナー」(東京・浜松町)

研究部会と委員会活動の活動成果を報告。講演「通貨制度(幣制)とUD」(内閣官房行政改革推進本部 渡部晶氏)も実施。

⇒ 5/20「第3回定例セミナー CM字幕勉強会」(東京・豊洲)

余暇のUDプロジェクトで研究してきたCM字幕に関し、CM字幕本放送開始に向けCM字幕トライアルに携わっている方々6名を招いて勉強会を実施。



⇒ 6/7 IAUD プロモーションムービー」制作、YouTube で公開

⇒ 6/14 一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会設立

寛仁親王殿下のご命日である6月6日に一般財団法人設立登記手続きを行い、「一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会」として14日に公示。

⇒ 7/2～3「INCLUDE ASIA 2013」ワークショップ開催

(香港デザインセンター主催、中国・香港)

IAUD主体による海外で初めてのワークショップ「Inclusive Design in Japan」開催。4時間の限られた中で日常の体験やニーズを率直に出し合い、言葉の障害を乗り越えてユニークな提案に結びつけた。



⇒ 8/26～30「第5回国際デザイン学会連合国際会議(IASDR 2013)」展示会参加

(日本デザイン学会・日本感性工学会・日本学術会議主催、豊洲)

IAUDと会員企業7社が出展。皇太子殿下がIAUDブースをご巡覧され、IAUDの活動に関心を寄せられたご様子で、UD製品を手にとって実際にお試しになられた。



⇒ 8/29 瑠子女王殿下がIAUD新総裁にご就任



⇒ 9/17～19 特別ワークショップ「第8回48時間デザインマラソン in 神戸」

⇒ 11/21 「IAUD 設立 10 周年記念イベント」(横浜市)

講演「新たな成長戦略とUD」(岩手大学地域連携促進センター客員教授 渡邊政嘉氏)、「UD 社会の実現に向けて」(国土交通省都市局 佐竹洋一氏)や、パネルディスカッション「これまでの 10 年、これからの 10 年 ～クールジャパンと海外戦略における UD～」を行う。



⇒ 11/21 「IAUD アワード 2013 表彰式／プレゼンテーション」

国内外 38 件のエントリーから「大賞」1 件「金賞」6 件「銀賞」7 件「IAUD アワード」14 件を選定。



2014 年

⇒ 3/17 「2013 年度 IAUD 成果報告会 & 第 4 回定例セミナー」(東京・芝)

2013 年度の各委員会と研究部会による主な活動を報告。講演「2020 年の東京オリパラに向けて」(内閣官房参与／内閣官房 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室長 平田竹男氏)も行う。



⇒ 5/8 国立印刷局「五千円券改良記念式典」来賓として参加 (東京・西ヶ原)

⇒ 9/9～11 特別ワークショップ「第 9 回 48 時間デザインマラソン in 東京」

⇒ 10/10 「気づきの事例集」Vol.1 発刊

住空間プロジェクトは 10 年間の UD 関連施設視察レポートをまとめた。



⇒ 11/9～13 「第 5 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島 & 東京」

(東京:東京国際交流館、福島:ビッグパレットふくしま)

初の福島と東京の 2 拠点で開催、24 か国から約 9,800 人が参加。テーマは「UD 初の福島と東京の 2 拠点で開催、24 か国から約 9,800 人が参加。テーマは「UD のグローバル展開～東京 2020 オリンピック・パラリンピックへ向けて～」。被災地の復興状況を視察する福島フィールドサーヴェイ「復興と再生のUD」や、2020 年のオリンピックに向けた提言を考える東京ワークショップ「東京 2020+」実施。UD 宣言「私たちは UD を 21 世紀の新しい価値を生み出す合言葉として歩みを進めたい」を採択。



⇒ 11/11 「IAUD アワード 2014 表彰式／プレゼンテーション」

国内外 44 件のエントリーから「大賞」3 件「金賞」6 件「銀賞」8 件「IAUD アワード」17 件を選定。



- ⇒ 11/6 UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」発刊

UD の幅広い分野を網羅。UD 検定・中級試験問題は本書に準拠して出題。



2015 年

- ⇒ 2/26 全国財務事務所長会議で講演(東京・霞が関)

講演「地域創生に向けた UD のまちづくり」で、UD の必要性や具体的な活用例や「48 時間デザインマラソン」を紹介。

- ⇒ 3/18 「第 1 回 UD 検定・中級」(東京・芝)

初級に続き UD 検定・中級がスタート。試験問題は公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」に準拠して出題、検定試験とは別の日に講習会も実施した。



- ⇒ 3/3～5/24 印刷博物館展示会「みんなにうれしいカタチ展日本発 UD2015」出展(東京・文京区)

- ⇒ 9/1～9/3 アリゾナ州立大学と UD 共同ワークショップ(東京都内、京都市)

研究部会と会員企業がアリゾナ州立大学院 Takamura 研究室の学生と「移動」「ワーク/ライフ」「レジャー(観光)」をテーマにした3つのワークショップを実施。UD について 2020 年東京オリンピック・パラリンピックを見据えた有意義な議論が行われた。



- ⇒ 9/9～11 特別ワークショップ「第 10 回 48 時間デザインマラソン in 東京」

- ⇒ 10/15 冊子「UD ってなんだろう？」発行

子供向けに UD を解説。標準化研究ワーキンググループが UD 授業の一環として江東区立第六砂町小学校で実施した UD ワークショップ「やってみよう！UD(ひとつの発見、そして未来へ)」で配布。



2016 年

- ⇒ 3/17 「第 6 回国際 UD 会議 2016in 名古屋」プレイヴェント(愛知・日進市)

講演「日進市におけるUD教育～3年間の実践～」(日進市立竹の山小学校校長 宮道弘巳氏)、「デザインの新しい時代」(名古屋学芸大学メディア造形学部長 木村一男)、特別セッション「名古屋観光ビジネスのデザイン提案～市民意識の変化～」((財)日本インダストリアルデザイナー協会中部ブロック)を行う。



- ⇒ 3/17 「IAUD アワード 2015 表彰式/プレゼンテーション」

国内外から 49 件のエントリーから「大賞」3 件「金賞」6 件「銀賞」8 件「IAUD アワード」29 件を選出。



⇒ 5/12 「2015 年度 IAUD 成果報告会」(東京・芝)

各委員会と研究部会が 2015 年度に実施された重要な取り組みを報告。講演「クリエイティブ産業政策の現況と UD」(経済産業省商務情報政策局 藤原宗久良氏)も実施。

⇒ 5/12~13 Innovation for all 2016 参加(ノルウェイ・オスロ)

講演「Innovation for All from Japanese Perspective」を行い、IAUD の活動や日本の最先端 UD 商品開発事例を報告。



⇒ 7/27~31「AHFE2016(第7回国際応用人間工学会議)」参加
(主催国際応用人間工学会、米国・フロリダ)

総裁瑤子女王殿下のご講演「Who am I? Or you? What is a person? What does our existence mean? What do we mean by connections between people? (人とは何か? 人の存在とは何か? 人との繋がりとは何か?)」は国を超えて大きな感動を呼んだ。



⇒ 9/1~3 特別ワークショップ「第11回 48時間デザインマラソン in 東京」

⇒ 9/21 「第12回しんきんビジネスマッチングビジネスフェア 2016」出展(名古屋市)

⇒ 10/3 公式 Web サイトリ全面リニューアル

⇒ 11/30 冊子「衣・着るⅡ ころとからだ編」発行

衣の UDPJ が衣服と人間の関係性をころとからだ、文化や社会生活について解説。



⇒ 12/9~11 「第6回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」(名古屋市・名古屋国際会議場)

30 か国から約 12,000 名が参加。テーマは「UD による共有価値の創造」。一般市民にもわかりやすい UD 公開ワークショップや展示会を行う。特に、標準化研究ワーキンググループが名古屋市内の小学校で実施した「こども UD ワークショップ」成果発表では、こども達自身が考えた UD を発表し参加者から多くの賞賛が寄せられた。UD 宣言「UD はモノのデザインを超えて、社会のあり方全般のデザインに対しても大きな役割を發揮できるだろう。この会議が新たなネットワークを広げ、さらなる議論につながることを確信している」を採択。



⇒ 12/9 「IAUD アワード 2016 表彰式/プレゼンテーション」

国内外 59 件のエントリーから「大賞」2 件「金賞」7 件「銀賞」12 件「IAUD アワード」34 件を選定。



2017年

- ⇒ 1/12～2/19 「デザイン・ミュージアム」企画展「The New Old: Designing for our Future Selves」協力(英国・ロンドン)

世界の高齢化対策へのデザインの役割をテーマにした企画展に参加。日本らしい心配りや新しいUD価値を提案している商品として、IAUD アワード受賞したパナソニック(株)のランタンとランプ、「第6回国際UD会議2016 in 名古屋」展示会に出展されたアザラシ型ロボット「パロ」を推薦。



- ⇒ 7/10 「2017年度第1回定例セミナー／IAUD アワード説明会」(東京・大手町)

「IAUD アワード2017」の審査体制や応募詳細について説明。金庭宣雄名古屋市議員による「UD2016 開催報告」や講演「成長戦略とデザイン政策」(経済産業省商務情報政策局 藤原宗久氏)も行う。



- ⇒ 8/31-9/2 特別ワークショップ「第12回48時間デザインマラソン in 東京」

- ⇒ 10/5 「第12回しんきんビジネスマッチングビジネスフェア2017」出展(愛知県・名古屋市)

- ⇒ 11/20～11/22 「ジャパンシルバーEXPO2017」UD ステージ開催

(主催:一般社団法人日本能率協会、東京・有明)

UDをテーマにしたセミナーを実施。研究部会や委員会、会員企業がプレゼンテーションを行い、研究活動の成果や先進事例を紹介し高齢化社会に向けたUDの理解と普及に努めた。

2018年

- ⇒ 2/22 HCJ2018 セミナー講演(日本能率協会主催、東京・有明)

ホテル・レストラン業界の展示会でセミナー「『ユニヴァーサルデザイン・スタディ』観察から見える気づきのデザイン」を開催し「48時間デザインマラソン」を紹介。

- ⇒ 2/22 第1回IAUD住宅学生コンペ

「UDプラスの家～『ゼロからつくる日本の住まい』を考える～」

学生からUDプラスの発想による斬新な住まいと暮らし方の提案を募るコンペを実施。「入賞」2件「佳作」2件を選定し表彰式を開催。



- ⇒ 3/9 「IAUD アワード2017 表彰式／プレゼンテーション in ミュンヘン」開催(ドイツ・ミュンヘン)



アワード実施7年目に初めて海外で表彰式を開催、14か国から参加者を迎える。国内外43件のエントリーから「大賞」2件「金賞」9件「銀賞」14件「IAUD アワード」14件を選定、表彰式とプレゼンテーションを行った。

また、IAUD アワード2017 審査委員会による基調講演やパネルディスカッション「UDは世界を変えられるのか」も実施。



⇒ 7/20 「第1回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」開催(東京・赤坂)

今回より「IAUD アワード」から「IAUD 国際デザイン賞」と名称を変更。賞の本質的目標や審査体制について説明した。講演「デザイン政策について」(経済産業省商務情報政策局 三牧純一郎氏)も行う。



⇒ 9/6-8 特別ワークショップ「第13回 48時間デザインマラソン in 東京」

⇒ 11/19 第2回 IAUD 住宅学生コンペ



「UD プラスの家～『ゼロからつくる日本の住まい』を考える～」

昨年に続き学生から UD プラスの発想による斬新な住まいと暮らし方の提案を募るコンペを実施。「入賞」2件「佳作」1件を選定。



テーマは UD による持続可能な発展

「第7回国際 UD 会議 2019 in バンコク」開催のご案内

IAUD は「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」を3月4日(月)から6日(水)の3日間、タイの首都バンコクで開催します。

会議のテーマは「UD による持続可能な発展」。ASEAN 各国の産業振興と地域発展、そして日本との更なる経済的文化的交流を促進することを通じて、質の高い UD 社会の実現をめざします。

参加登録を開始しました。また、国際会議でビジネスにおける UD の取り組みを講演いただく企業や団体も募集しております。どうぞ奮ってご応募ください。

※「第7回国際 UD 会議 2019 in バンコク」公式サイトはこちらをご覧ください。

<https://www.ud2019.net>



会場となるモンクット王工科大学

